

サイ・テク 知と技の発信

【131】

埼玉大学・理工学研究の現場

■新陳代謝

人々の生活の場は生き物のように新陳代謝しています。建物や道路は老朽化しますし環境や防災など新しい時代の要請もあ

つて景観は次々と造り替えられていきます。そのような中で人間らしい暮らしや文化を見失わないために、生活の場のあるべき姿を常に考える必要があります。私はそれを場所の姿―景観

■プロジェクト

景観研究では、地域の現場を巡りながら問題のある景観に着目し、改善の手がかりとなる景観像を考察していきます。研究室に戻れば分析対象となる視覚環境を設定して人間を観察する実験を繰り返して、人々の知覚や認識、行動のデータをまとめて分



深堀清隆氏(ふかほり・きよたか)68年生まれ。97年3月埼玉大学大学院修了。博士(学術)。埼玉大学工学部建設工学科助手、埼玉大学大学院理工学研究科助教授、トロント大学在外研究員などを経て、07年4月より現職。専門は景観工学。

埼玉経済

地域の風景づくり

深堀 清隆 大学院理工学研究科 准教授

析します。これが私の研究スタイルです。

景観のテーマに関して、地域と関わるケースも様々です。所属するコースでは大学院G.P.という教育プログラムを実施していますが、修士の学生を地域の現場に派遣して様々な団体と連携した活動を行っています。その中で私のプロジェクトのいくつかを紹介します。

秩父地域では地域のNPOや行政等の協力を得て、風景街道のプロジェクトに参画しました。大滝での森林の間伐をテーマにした道路際の眺望広場、小

鹿野町でのあじさい街道再生プロジェクトの他、横瀬町の道の駅、果樹公園あしがくぼでは、横瀬川を両岸から関連づける二つの広場(シンボルツリー広場と親水デッキのあるオープンカフェ広場)のデザインを学生らが提案し実現しています。鉾山町のかつての生活と景観の移り

変わりを題材にしたドキュメンタリー映像も、企業への取材調査の上、学生がシナリオを提案しています。

■ガイドライン
最近では、飯能地域でも名栗の関東ふれあいの道・水源の道や、飯能・西武の森を舞台に活動を実施しています。飯能・西武の森では、地域の団体や行政、企業が連携して谷津田再生など里の風景再生を目指した活動をされています。学生たちは、人と自然の領域が重なりあう場所

で、人と自然との望ましい関係や触れ合いの場はどう整備・管理されるべきかを考え、遊歩道や案内表示のデザイン、人の行動心理を踏まえた環境利用マネーのあり方を含めた景観ガイドラインづくりに取り組んでいます。

■地域文脈主導
風景づくりは建物単体のデザインと異なり、人の目に飛び込

む環境の全体像を考えるため、地域の広がりの中で関係者が連携することが大切です。この場合、道路や河川などの社会基盤施設のマネジメントの観点から

行政と地域が連携すると効果的だと思います。水や車の流れを安全に効率よく流すだけでなく、生活の舞台として、

化の再生を第一とする地域文脈主導の考え方で、まちや水辺が整備されることが望まれます。

地元埼玉県内ではさまざまな団体が地域づくり活動に相当努力をされていますが、景観形成の観点から、行政による社会基盤施設整備(機能整備とデザイン)の維持、改修も含めて「場所」と地域団体の活動がもう少し密に連携できると良いと感じています。

企業、団体商店街などの話題や情報をお寄せ下さい
TEL 048・7955・9161 FAX 048・653・9040